【事業案内】キーワード：ｅｃｏ検定、ＳＤＧｓ、環境経営、環境教育、顕彰事業、エコユニット、エコピープル、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社折兼、大和リース株式会社、植田油脂株式会社、トヨタ自動車九州株式会社

２０２４年１１月１１日

報道機関各位

東 京 商 工 会 議 所

「ｅｃｏ検定アワード 2024」受賞者決定のお知らせ
11/22（金）に表彰式・特別講演会を開催

東京商工会議所（小林健会頭）は、「ｅｃｏ検定アワード 2024」の受賞者を決定し、１１月２２日（金）にｅｃｏ検定アワード 2024 表彰式・特別講演会を開催しますので、お知らせします。

ｅｃｏ検定（環境社会検定試験）®とは、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、２００６年から実施している検定試験です。東京商工会議所では、エコピープル（＝ｅｃｏ検定合格者）が試験で得た知識をアクションに繋げていくための支援事業を行っています。その事業の一つである**「ｅｃｏ検定アワード」は、他の模範となる環境活動を実践したエコユニット**（＝エコピープル複数名で構成するグループ）**の活動を称え、広く周知することを目的に実施**しているものです。

２０２４年度は、応募のあった１６件の中から大賞１件、優秀賞２件、奨励賞２件の５エコユニットが受賞となりました。

当日は第１部として特別講演会を実施します。経営コンサルタントの笹谷秀光氏より、企業がＳＤＧｓを経営に取り入れ、サステナビリティ経営を実現するための考え方や具体的手法を解説いただきます。

第２部では、ｅｃｏ検定アワード 2024（審査委員長：鶴田佳史・大東文化大学社会学部教授）の表彰式を開催します（受賞者は次ページに掲載）。受賞者に対し、表彰盾および副賞（大賞３万円、優秀賞・奨励賞１万円分の商品券）が贈呈されます。

ｅｃｏ検定アワード２０２４表彰式・特別講演会　開催概要

【日　時】２０２４年１１月２２日（金）　１３：３０～１６：００

【場　所】東京商工会議所ＲｏｏｍＢ１-２（千代田区丸の内３－２－２（丸の内二重橋ビル　５階））

【プログラム】

第１部　１３：３０～１４：３０　特別講演会

（演題）ＳＤＧｓを経営に実装するとは？

～勝負の 2030 年に向けて企業、団体、私たちにできること～

（講師）経営コンサルタント　笹谷　秀光　氏

第２部　１４：４０～１６：００　ｅｃｏ検定アワード 2024　表彰式

（受賞者）大賞１社、優秀賞２社、奨励賞２社

※詳細は別添資料をご参照ください。

2023 年記念撮影の様子

【本件に関する問い合わせ先】東京商工会議所検定センター

ｅｃｏ検定アワード２０２４　受賞者一覧

＜大　賞＞株式会社イトーヨーカ堂（東京都品川区／小売業）

〔受賞内容〕店舗での小売業という業態を生かし地域や顧客と連携した環境活動の実施　等

＜優秀賞＞株式会社折兼（愛知県名古屋市／食品包装容器、資材、衛生関連商品等の販売）

〔受賞内容〕生分解性食品容器の開発・堆肥化による廃プラスチック削減　等

大和リース株式会社（大阪府大阪市／建設業）

〔受賞内容〕商業施設における里山風景の再現、建物建材の再利用・再資源化の実施　等

＜奨励賞＞植田油脂株式会社（大阪府大東市／廃食用油の回収、リサイクル販売）

〔受賞内容〕自治体や他企業と連携した廃食用油の回収推進、地域清掃活動の継続　等

トヨタ自動車九州株式会社（福岡県宮若市／自動車および自動車部品の製造）

〔受賞内容〕地域の環境保全・景観保全活動、従業員への熱心な省エネ教育・啓発活動　等

ｅｃｏ検定アワードとは

ｅｃｏ検定を通じて学んだ知識を活用し、積極的な環境活動を実践するエコユニットの活動の顕彰・周知を通じ、より多くの企業や団体、個人の方々に、具体的なアクションを起こす際の活動指標としてもらうことを目的に実施する顕彰事業です。

２００８年からスタートし、ｅｃｏ検定アワード審査委員会（審査委員長：鶴田佳史・大東文化大学社会学部教授）による審査のもと、２０２３年までにのべ１０６のエコユニット、６７名のエコピープルを表彰してまいりました。

過去受賞企業一覧は以下 URL もしくは QR からご覧いただけます。

https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/people/award/

ｅｃｏ検定（環境社会検定試験）®とは

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、２００６年から実施している検定試験です。

これまでのべ６４万人が受験し、３８万人のエコピープルが誕生しました。

ｅｃｏ検定の概要は以下 URL もしくは QR からご覧いただけます。

https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/

eco検定アワード2024

実施報告書

挑みつづける、変わらぬ意志で。

東京商工会議所

ｅｃｏ検定アワード2024 審査委員長挨拶

受賞者のみなさま、おめでとうございます。近年、環境活動は、さまざまな主体による連携によるもの、環境・社会問題に複合的に取り組むものなど、多種多様なものとなってきています。持続可能な社会実現のためには、さまざまな主体とパートナー関係を構築し、維持、改善できることが重要であり、組織外への影響と波及効果を自組織が意識することが必要であるといえます。

ｅｃｏ検定アワードは、これまでも時代の変化とともに制度の変革を行ってきました。そして、今回、エコユニット活動の支援を強化するためにエコユニット部門のみを顕彰することとなりました。その理由は、環境活動が市民や社会に与えるプラスの影響と波及効果を重視したためです。もちろん、過去のエコピープル部門の受賞者の方々は、自らの活動だけではなく、周りの人たちと協力しながら環境活動を行っており社会への影響と波及効果はありました。しかし、さらに環境活動を強化するために企業や組織の活動に焦点を当ててエコユニット部門のみに集中することとしました。

本年は、大賞１組織、優秀賞２組織、奨励賞２組織が受賞されました。おめでとうございます。大賞の株式会社イトーヨーカ堂は、外部の認証団体と連携したキャンペーンの実施や持続可能な調達を目指していることが評価されました。優秀賞の株式会社折兼は、他業界や学校等と連携した取り組みや、「エコNo.１企業の達成」をスローガンにｅｃｏピープルの人数を増やしていること。大和リース株式会社はｅｃｏ検定取得率が95%近くあることや、生産から廃棄までのあらゆる段階において環境活動を展開していることが評価されました。奨励賞の植田油脂株式会社は、廃食油のリサイクルプロジェクトに熱心に取り組んでいること。トヨタ自動車九州株式会社は、自然環境保全に地域と連携して取り組んでいることが評価されました。

受賞組織に代表されるように、主体間連携の核となり、周りの主体と連携しながら環境活動を推進していくことが今後重要となってきます。エコピープルが集まったエコユニットは、主体間連携の核となることができます。ｅｃｏ検定アワードが、エコピープルの育成に「つながり」、持続可能な社会を実現する仲間を応援することで、その活動が広く社会へと「つながり」、持続可能な社会という人類の未来の実現へと「つながって」いくことを強く、願っています。

ｅｃｏ検定アワード2024審査委員長
鶴田　佳史（つるた・よしふみ）
大東文化大学　社会学部社会学科教授

ｅｃｏ検定アワードとは

　エコピープル（＝ｅｃｏ検定合格者）が試験で得た知識をアクションに繋げていくための支援事業の一環として、他の模範となる環境活動を実践した複数のエコピープルからなるエコユニットの活動を称え、広く周知することを目的に実施している。

ｅｃｏ検定®とは

　環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、2006年から実施している検定試験。
これまでのべ64万人が受験し、38万人のエコピープルが誕生している。

（2024年8月現在）

ｅｃｏ検定アワード2024　実施概要

（応募期間）2024年6月18日～2024年８月30日
（応募者数）16　ユニット
（受賞者数）５　ユニット

ｅｃｏ検定アワード2024　受賞者一覧

※同一賞内は50音順

（大　賞）株式会社イトーヨーカ堂　・・・Ｐ３
（優秀賞）株式会社折兼　・・・Ｐ５
（優秀賞）大和リース株式会社　・・・Ｐ７
（奨励賞）植田油脂株式会社　・・・Ｐ９
（奨励賞）トヨタ自動車九州株式会社　・・・P11

大賞

株式会社イトーヨーカ堂

2014年よりｅｃｏ検定受験を推奨し、エコユニットに所属するエコピープルが5,299名となりました。
事業活動の一方で地球環境に負荷を与えないよう、その影響を低減しステークホルダーの皆様と一緒に事業活動に取り組んでいます。エコピープルが年々増加するとともに、従業員の環境問題への理解が進み取り組みが発展しました。６月の環境月間、10月の秋の月間には特に重点的に取り組みました。

環境月間の取り組み

イトーヨーカドー各店舗に設置している「総合ステージ」にて、「持続可能な調達」「プラスチック対策」をテーマに、セブンプレミアムの環境配慮商品の紹介や、店舗で実施している取り組みについて23年度の実績も踏まえながら認知度向上に向けた啓発活動を実施しました。
また、お客様参加型企画として、魚型のシールに自分(お客様)ができるエコの取り組みを書いて海のボードに貼り、シール１枚が１円として６月～８月に全店で実施した「日本財団　海と日本プロジェクト」募金に寄付される企画を初めて実施し、大好評でした。寄付金は海洋環境保全活動に役立てられます。

昨年の再エネ表彰

環境負荷低減とエネルギーコスト対策の強化、好事例の水平展開からのシナジー効果の促進などを目的として、「みんなに、未来に、つなげる省エネ活動」を実施しました。テスト店舗にて、店舗従業員、本部従業員が売り場やバックルームを練り歩いて施策を協議してガイドラインを作成し、照度ダウンや屋上塔屋のライトダウン、冷蔵・冷凍ケースの清掃やナイトカバー設置、日々の電気使用量をバックルームに掲示して従業員の意識を高めるなど、各店舗従業員が現場で創意工夫し節電を実施できました。
省エネ推進は、従業員のもったいない意識やCO2排出削減への貢献につながっており、現在もさらなる削減へ取り組みを推進しながら継続しています。

（所在地）　東京都品川区
（事業概要）小売業
（会社情報詳細）https://www.itoyokado.co.jp/corporate/

秋の環境月間　認証団体と啓発イベント実施

「もったいないをなくそう」をテーマに、お客様と一緒に環境配慮の取り組みを推進するため、各種認証団体様と連携して認証商品の啓発活動を実施しました。

JGAP認証やフェアトレード、大豆ミートなどの持続可能な商品を売り場で探したくなるような啓発媒体の作成や、MSC「海のエコラベル」付き商品を使用したレシピの試食提供や、店頭での動画上映、絵本などの販促物などを用いた訴求活動を実施。

食や健康に係る企業様と足立区と連携した「食Expo 2023 in Adachi」イベントにて、「顔が見える食品」の啓発を実施し、謎解きラリーや「顔が見える野菜クレヨン」でのお絵描きを通じてお子様からご年配の方まで多くの方に参加いただきました。

来期の計画や活動テーマ、抱負

セブン＆アイ・グループで掲げる環境宣言「GREEN　CHALLENGE2050」の達成に向け、身近な店舗でお客様と一緒に環境活動に取り組んでいます。ｅｃｏ検定はお客様への接客や従業員の仕事のモチベーションにもつながるため推奨しています。

これまで積み重ねてきた活動が評価され大変光栄に存じます。営業活動での環境負荷低減を図り、地域での環境活動をリードする主体になれるよう、今後も従業員の環境問題への知識を深め、取り組みを推進してまいります。

審査委員からのコメント

環境配慮商品の紹介や店頭での普及啓発イベントなど、店舗という形態をいかして、地域を巻き込み、さらに他の団体とも連携した活動が高く評価されました。従業員の方もｅｃｏ検定への取り組みや省エネ活動にも熱心に行うなど、従業員も消費者と一緒に環境配慮の取り組みを継続し、広げていく姿勢も見られます。買い物と同時に環境学習もできる、地域の身近な拠点として、今後も活動を継続していただけることを期待しています。

優秀賞

株式会社折兼 株式会社折兼

弊社は今年で創業138年を迎える食品包装資材の専門商社です。環境問題への取り組みとして、サトウキビの搾りかすであるバガスに竹や麦わらを混ぜ合わせて作られたバガス容器の開発と販売に注力しています。しかしコストアップに繋がるため、バガスシリーズへの切り替えに理解が進みづらい現状があり、使用済容器の再資源化や課外授業の実施など、一般消費者の環境問題への意識を向上させる取り組みに積極的に取り組んでおります。

バガス容器の再資源化

弊社のバガスシリーズは生分解性を有しております。業界初の事例として、生分解性のほか、使用済容器を土中にて分解した堆肥と、その堆肥を用いて栽培した野菜の安全性に関するエビデンスを取得いたしました。このエビデンスから、イベントを中心に使用済容器を堆肥化させて野菜を育てるバガスフードサイクリングの取り組みに注力しています。

初めはエビデンスが無く、安全性を証明できないため取り組みに苦戦していましたが、エビデンスを取得したことで、企業やスポーツチームとの事例が増えてまいりました。分別回収から堆肥化、その肥料を使って野菜の栽培、できた野菜を実食する工程に参加いただくことで、食育に繋がったと好評でした。

釣具業界との商品開発

海洋における生分解性から、釣具業界とコラボで海で分解する釣りエサ容器を開発いたしました。食品商品包装業界と釣具業界において、これまでに接点は全くございませんでしたが、海洋ごみに悩む釣具業界のニーズとマッチさせることができました。従来のプラスチック容器から大幅なコストアップとなりますが、ワンタッチで簡単に蓋ができる構造にするなど釣りの際の使いやすさにもこだわった付加価値をつけることで、多くの釣具店・消費者より受け入れてもらえるようになりました。結果、年間100万枚の販売枚使用数となり、年間合計で3.5tの使い捨てプラスチック使用量削減に貢献いたしました。

（所在地）　愛知県名古屋市
（事業概要）食品包装容器、資材、衛生関連商品等のトータル販売
（会社情報詳細）https://www.orikane.co.jp/

子どもたちへの啓発活動

次代を担う子供たちへの啓発活動として、小学校から高校での課外授業の実施や、SDGsについて学ぶキャンプ、イベントへの協力を行っております。弊社が子供たちにも身近な食品パッケージを多数取り扱っている強みを生かし、様々な素材からできたパッケージを手に取り環境問題について考えてもらっています。普段、子供たちは食品パッケージに意識を向けることが少ないですが、じっくりとパッケージを眺めることで、実はいろいろな素材のパッケージがある事、マークによってごみの捨て方が変わってくることなどを学んでもらっています。学校との取り組み以外にもSDGsを学ぶキャンプへの協力など、子供向けの取り組みに支援をしております。

来期の計画や活動テーマ、抱負

持続可能な食文化を支えることが、中長期目標となっております。

その中で、ｅｃｏ検定は社員の環境問題に対する意識を高めるとともに、ビジネスと環境の相関を的確に説明できる人材の育成に繋がっています。

光栄な賞を受賞させていただきありがとうございます。ｅｃｏ検定の受賞を通じて、社員全体の環境問題に対する意識向上に繋がっております。今後も社会全体に貢献できるよう取り組んでまいります。

審査委員からのコメント

バガスや生分解性プラスチックなどの環境素材を利用した食料容器を販売していく貴社の事業は、廃プラスチック減少などの社会的課題を解決しながら経済的価値を同時に満たしている素晴らしい取り組みだと思います。

今後、貴社の商品を通じて、子供達への啓発活動や異業種との商品開発、バガスフードサイクリングのスキーム構築などのオリジナルな環境活動を通じて、更なる商材認知が広がり事業が拡大されることを期待しております。

優秀賞

Daiwa Lease® 大和リース株式会社

【持続可能な社会を実現】
①生物多様性の活動＝環境省の「自然共生サイト」の認定評価を取得／８つの「SEGES」認定を取得／JHEP認証制度AAランク認証を取得／地域材や国産材を積極的に使用
②サーキュラーエコノミーの活動＝不要な外壁ウレタンパネルを再資源化し、自社製品に活用することで循環型経済の実現に貢献／大阪城公園で廃棄されるクスノキの剪定枝から生体水アロマを開発し、森林浴を体感できる空間を提供

環境教育の実施

環境の最新動向、環境法令について理解を深め、持続可能な社会の実現に向けて、身近な環境問題、社会課題に関心を持ち、経営戦略に密接に関連することを学び、さまざまなSDGsへの取り組みを推進しています。
「どれだけ技術革新がおこなわれ、どれだけ便利な世の中になったとしても、それを動かすのはやはり人である。だから我々の企業は“事業を通じて人を育てる”んだ」という当社グループの創業者の想いにより、人と環境にやさしい未来をつくるために、社会課題を解決する商品・サービスを提供できる人財の育成に環境教育を推進しています。

生物多様性の活動

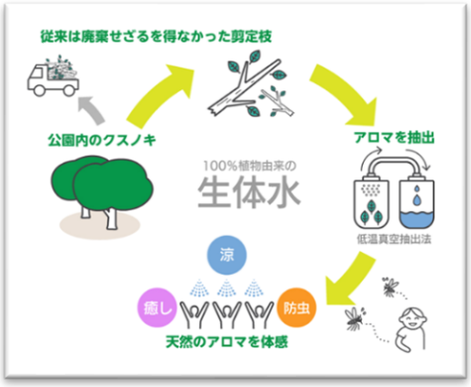
社会経済活動を持続可能とするため、ネイチャーポジティブ経営への移行が必要です。当社は、生物多様性の活動として、様々な活動を行っています。
①環境省が定める「自然共生サイト」の認定評価を取得
令和5年度前期で「ブランチ神戸学園都市　チガヤ群落」
令和6年度前期でフレスポ御所野内の「ハチロウトープ」
②公益財団法人都市緑化機構が実施する緑の認定制度「SEGES」には、8施設が認定
③JHEP認証制度AAランクを取得「ブランチ神戸学園都市」
④木材利用の促進
当社商業施設の整備には、地域材や国産材を使用
⑤生物多様性事業所活動評価制度の実施

（所在地）　大阪府大阪市
（事業概要）建設業
（会社情報詳細）https://www.daiwalease.co.jp/

サーキュラーエコノミーの取り組み

①デポ・工場部門でのサーキュラーエコノミーへの取り組み
　不要になった外壁ウレタンパネルを、製鐵工場の電炉へ製鐵材料の一部として投入し、その後、製造された鋼材を購入し、自社鉄骨製品の材料として使用することで「処理困難物の再資源化スキーム」の構築につながり、サーキュラーエコノミーの実現に貢献しています。

②生体水の活動
　維持管理を行う大阪城公園内で廃棄処分されるクスノキ剪定枝から低温真空抽出法という技術を用いて100%自然由来の生体水アロマを開発しています。当社が維持管理する公園にて生体水をミストとして噴霧し、森林浴を体感できる快適な空間づくりや、夏場の猛暑対策にも効果的なアロマミストを提供しました。



来期の計画や活動テーマ、抱負

　サステナブルな社会の実現を目指して環境長期ビジョン「Challenge ZERO 2055」を策定し、環境負荷”ゼロ”に挑戦しています。環境と企業収益を両立した“持続可能な社会づくり”を目指し、ｅｃｏ検定を通じて環境問題に積極的に取り組む“人づくり”を進めています。
　この度は、ｅｃｏ検定アワードを受賞させていただき、大変光栄に存じます。受賞を励みに、今後も多くの方々と協力し、環境保護や持続可能な開発に向けて、更なる努力を重ね、より良い未来を築くために邁進いたします。

審査委員からのコメント

　全社を挙げた継続的なｅｃｏ検定取得推奨の取り組みにより、従業員数2394人のうちエコピープル数は2272人。協力会社や大和ハウスグループにおけるｅｃｏ検定取得推奨にも熱心に取り組んでおられます。事業活動においても、商業施設における里山風景の再現（環境省「自然共生サイト」認定）、建物建材の再利用・再資源化など、サーキュラー・エコノミーへの移行に向けた取り組みを着実に進めておられる点、素晴らしいと思います。今後一層の意欲的な取り組みを期待しています。

奨励賞

植田油脂株式会社

2018年からのｅｃｏ検定普及活動は昨年就任した新社長が発案者でした。新社長の肝入ですのでエコピープルには、今春からｅｃｏ検定手当が支給される規定ができました。金一封でなく手当支給なので退職するまで支給されるのです。当社は循環型社会に貢献する企業だからこそ、社員には環境問題に関心をもって貰いたい、環境問題解決にチームで取り組んで貰いたい、という新社長の強い思いを私達は感じました。

パートナーと脱炭素

全国で年間約9万トンが廃棄とのデータがある家庭廃食油のリサイクル実現にむけ、１．集約する回収スポット設営、２．情報発信、３．大儀・動機。3本を柱として「ここやでぇ～廃食油リサイクルスポット」を設け自治体や企業とパートナーシップで推進活動に取り組んでおります。

廃食油はペットボトルに入れて持参して頂く事を推奨しており、油が付着したペットボトルはリサイクル困難で産業廃棄物でしたが、ボトルtoボトルが可能となり容器から中身まで完全リサイクルを実施しております。家庭廃食油はBDFに製造し自社回収トラック３台に100%使用し、2023年５月から2024年７月までのCO2削減量は82.9ｔ、植物由来の再生エネルギーとして地産地消に貢献しております。

水を守り緑を増やす

廃食油のリサイクルを通じて、環境負荷を低減する効果のある「業務用リサイクル石けん」の普及を促進して石けんの売上げの一部（1缶あたり50円）を「みどりの募金」に寄付をする。「みどりの募金」は、植樹からCO2削減に繋がり、売手も買手も世間も良くなるプロジェクトです。

リサイクル石けんの「水への優しさ」の認識が弱く消費者が他の洗剤と比較するポイントは「洗浄力」と「コスト」が優先で、「優しさ」の順位が圧倒的に低いことです。

今後は、SDGsを前面に押出し「エシカル消費」を強調し、「水への優しさ」「緑を増やす」アピール力を高め、資源を無駄にしない方法で周知活動を行い、根気強く継続いたします。

（所在地）　大阪府大東市
（事業概要）廃食用油の回収　リサイクル販売
（企業情報詳細）https://uedayushi.co.jp/

アドプトロード清掃

当社は2016年から取り組み今年５月で丸８年そして９年目を迎えようとしています。「地球のきれいをお手伝い」をキャッチフレーズに大阪府と大東市のアドプトロード制度を活用し本社と新田工場では月1度、清掃活動を行っております。

地域に捨てられたゴミは川→海に流れていき海洋ゴミが生態系に与える影響は大きく小さなゴミを1つ拾うことが地球環境を守る大事な行動と考えることができます。

この清掃活動を通じ地域の方に少しでも貢献できるように、また「ゴミのポイ捨ては多くの人に迷惑がかかる」「絶対にゴミのポイ捨てはしない」との思いが地域住民や通行人に共感し【ゴミがなくなる社会】を目標に今後も取り組んでいきます。

来期の計画や活動テーマ、抱負

脱炭素社会に貢献する企業として従業員には環境問題を学んでもらいたいと２０１８年からｅｃｏ検定普及活動を行っており、昨年からエコピープルには手当支給の規定が出来ました。SBT認証の取得にむけ従業員への環境教育は必須です。

2度目の受賞、これは社員が継続活動してきた証であり大変光栄です。特に廃棄されている家庭の廃食油リサイクル、それをBDFに再生利用しCO2排出削減に繋がる取り組みについて、パートナーシップで目標達成に取り組みます。

審査委員からのコメント

「脱炭素社会に貢献する企業になる」というビジョンのもと、合格者に対して「ｅｃｏ検定手当」を開始されました。これは、企業全体の環境意識向上につながる取り組みだと評価しました。廃食油のリサイクルプロジェクトでは、2025年までに回収スポットを500カ所に拡大するという目標を掲げ、回収体制を強化しています。持続可能な燃料への期待が高まる一方で、廃食油の安定確保が課題となる中、その課題解決に貢献するものであり、今後の動向に期待しています。

奨励賞

トヨタ自動車九州株式会社

トヨタ環境チャレンジ2050に呼応し、さまざまな活動に取り組んでいます。活動の一環として、従業員に対し環境の関心・理解を深め、アクションにつなげることを目的に「環境人財づくり」を推進しています。社内環境意識向上のため、社内環境活動を推進する環境保全組織（約160人）がｅｃｏ検定を受験しました。その後、関心を持った従業員が仲間を集い受験するなど環境意識の高まりを見せています。

さつき松原保全管理

2010年４月に、福岡県宗像市および宮若市と、地域の活性化を目的に、地域貢献や連携協力に関する協定を締結しました。その中で、宗像市にある国有林のさつき松原の景観維持のため、定期的な草刈りや松葉回収など保全活動に取り組んでいます。

継続的な活動により関係自治体や地元の皆様から高い評価をいただいています。社内ではボランティアのしくみが定着しているため、毎回100人程度の従業員が参加する大変人気のある活動です。

等覚寺（とかくじ）支援活動

農林水産省選定「農村景観百選」に指定されている、福岡県苅田町等覚寺地区で景観保全を目的に棚田での草刈り、林道の清掃、そばの刈り取り・天日干し、いくり（スモモ）の剪定などに取り組んでいます。

2014年から、等覚寺地区景観保全 協議会の一員としてこの活動に参画しています。毎回20人程度、のべ360人の従業員が参加する大変人気のある活動で、地域の方からも「地域の活性化につながり、大変ありがたい取り組み」と感謝の声をいただいています。また、地域活性化アイテムの一つとして、YouTubeで活動の様子を紹介することで、従業員・地域の方々以外へ向けた魅力発信につなげています。

（所在地）　福岡県宮若市
（事業概要）自動車およびその部品の製造
（企業情報詳細）https://www.toyota-kyushu.com/

省エネアイテム発掘

2035年工場カーボンニュートラル達成に向け、省エネ活動・再エネ導入・ガスCO2フリー化の３つの方策を軸に、活動を実施しています。その中でも、生産現場と全社事務局が一体で工程に入り込む"エスコ活動"という省エネアイテム発掘活動を全社で推進しています。

その一環として、省エネ教育・啓発にも取り組んでおり、社員に見て・知って・体験する勉強会を定期的に実施しています（生産工程で使用する圧縮エアーの「使い方のムダ」体感など）。参加者は、この知見を自部署に持ち帰り、省エネ改善の着眼点の共有や自工程でのアイテム発掘に役立てています。今後も継続的に勉強会を開催する予定です。

来期の計画や活動テーマ、抱負

毎年、生産環境方針を策定し、①工場カーボンニュートラル　②循環型社会の構築　③環境違反認識の強化と未然防止　④CSR向上の取り組み　⑤社内外の啓発/教育による従業員エコマインド向上（ｅｃｏ検定資格取得など）の目標値を定めて、活動に取り組んでいます。

トヨタ自動車九州㈱は、環境の取り組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、全社を挙げてより良い地球環境の実現と地域の繁栄に取り組んでいます。今後も「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けた取り組みを推進します。

審査委員からのコメント

地域の環境保全活動に熱心で、福岡県宗像市、福岡県宮若市と地域活性化や地域貢献の協定を締結し、国有林であるさつき松原で定期的な草刈り、松葉回収等に取り組んでいます。また、「農村景観百選」に指定されている福岡県苅田町等覚寺地区では道路整備、林道の清掃、そばの刈り取り・天日干し、いくり（スモモ）の剪定等を行っています。こうした地域の環境保全・景観保全活動に、多くの社員が参加していることは評価できます。今後も地域貢献に資する環境活動を期待しています。

「ｅｃｏ検定アワード2024 」審査委員会

（敬称略・順不同）

委員長	鶴田　佳史	大東文化大学　社会学部社会学科　教授
委員	中山　有宇子	環境省 大臣官房総合政策課　環境教育推進室　室長補佐
委員	猪又　陽一	アミタ株式会社　スマートエコグループ　グループマネージャー
委員	神田　修二	いであ株式会社　特任理事 国土環境研究所 生物多様性研究センター長
委員	黒柳　要次	株式会社パデセア　代表取締役
委員	吉田　広子	株式会社オルタナ　オルタナ編集部　副編集長
委員	大下　英和	東京商工会議所　理事・産業政策第二部長

今回の受賞者の活動および過去の受賞者はこちらからご確認いただけます。

【エコピープル支援事業ウェブサイト】

https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/lp/people/index.html

2024年11月11日　発行
東京商工会議所　検定センター
〒100-0005　東京都千代田区丸の内３－２－２
03-3283-7666
https://kentei.tokyo-cci.or.jp/